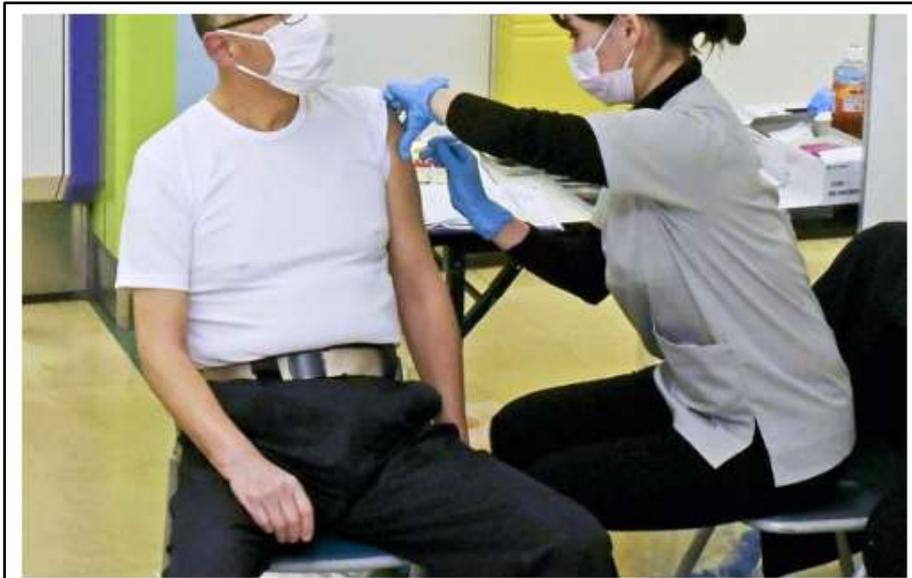


日本でコロナワクチン「年1回」接種が急浮上米国案に従って大丈夫か、専門家に聞いた

2023/1/28 日刊ゲンダイ



これまで追いかけるように追加接種を重ねてきたが… (C) 共同通信社

新型コロナウイルスのワクチン接種を年1回とする案が急浮上している。厚労省の専門部会は26日、会合を開き、今後の接種回数や対象者などを議論。米国で年1回の接種が検討中であることなどが報告され、出席者からは「年に1回は接種を受ける人には動機になる。最低限年に1回やろうというのが現実的な路線

だ」との意見が出た。

2021年2月にコロナのワクチン接種がスタートし、まもなく2年。ワクチンは接種後時間が経つと効力が落ちるため、多くの国民は追いかけるように追加接種を重ねてきた。3回接種は8500万人、4回接種は5600万人、5回接種は2700万人が完了している。

追加接種の遅れについて岸田政権が批判されたこともあった。ワクチンの接種間隔「8カ月」に固執し、第6波の死者多数につながった件だ。

ところが一転、「年1回」にして大丈夫なのだろうか——。米食品医薬品局（FDA）は23日、ワクチン接種についての素案を発表。大半の人は年1回とし、高齢者や免疫不全の人などは2回の接種とする提案を示した。

米国は昨年、コロナがあまり流行せず

医療ガバナンス研究所の上昌広理事長はこう言う。

「米国は昨年、あまりコロナが流行しなかった。感染が広がらなかった米国でワクチン接種を原則年1回とし、高リスクの方を2回とするのは理解できます。しかし、日本で米国の議論をそのまま取り入れることは危険です。オミクロン株以降、日本や韓国など東アジアでは感染拡大が顕著になっています。少なくとも今年については、流行期である夏と冬の前にそれぞれワクチン接種を行うべきです」

「米国の議論に乗っかり、ワクチン接種を年1回に限定することで国庫負担を軽減しようとする財務省の狙いもあるようです」（霞が関関係者）

■1月は死者1万人超へ

第8波は深刻な状況が続く。1月の死者数は26日時点で9400人を上回り、初の1万人超は確実だ。

「高齢者が外出を控えてきたため、体力が弱り、死者の増加につながっています。高齢者はしっかりワクチンを打った上で、外で大いに活動してもらうことが重要です」（上昌広氏）

今年には国内外でワクチン接種のあり方にも変化がありそうだ。